

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102246
法人名	株式会社サンブレラ
事業所名	グループホームパラソル操南(第1ユニット)
所在地	岡山県岡山市中区藤崎136-26
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 23 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligyosyoCd=3390102246-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 3 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは各種研修へ積極的に参加しています。外部研修としては、認知症介護実践研修に受講可能なスタッフから順番に講習し認知症への理解、現場での実践へと繋げています。内部研修としては、担当制とし毎月担当者が責任をもって行うことで全体の知識の向上に繋がるよう実施しています。また、行事においてもコロナ禍でさまざまな制限もありますが、施設内で全体行事を月に1回以上開催、日常の手作りおやつ、地域との関わりという点でご利用者様と一緒に資源化物を持参するんど取り組んでいます。面会も制限している中ですが、ご家族様へ写真付きのお手紙をお出したり、電話連絡等にて関係性を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年、法人全体で人事異動を実施したが、今まで培った経験をより活かせる様に、ホーム長を中心にスタッフ全体で飛躍させようと試みた。この施設も、前任者の思いを受け継ぎ、チームワークプレーで維持しようと、新ホーム長は、職員一人一人と話す機会を増やし、職員の気持ちを汲む場を設けた。全てが自分自身に降りかかってくる事だと戒めと感じ、職員を大事なパートナーとし、存在感を高めてきた。持ち前の明るさで新任として取り組むべき事柄を黙々徹底している事が窺え、今、出来る事と出来ない事を明確にして、ぶれない指導と役割を与え尊重している。可能性は、まだまだ少ないが、理想は高く、来年の評価が待ち遠しい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割は認識している。理念の共有はしているが、内容を理解し、実践しているかと言う意味ではもう少しだと思います。今後も定期的に会議の中で共有していきたいと思います。	毎月の管理者会議の都度、社長と理念共有した後、毎月の事業所内のカンファレンス(業務や利用者に関する送りや勉強会)で、その周知を図っている。新人職員には入所時と半年毎の自己評価表を活用して、理解を深めて頂いている。	職員全員が、理念や方針を覚えられる様にしては如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入はしていないが、リサイクル活動には積極的に参加し接点を持っている。コロナ禍で交流は不十分となっている。今後、気軽に来て頂ける環境に向けて交流を深めていきたいと思っています。	リサイクル活動では、毎月利用者と資源ごみを出しに行き、当番さんや行き交う人たちと挨拶や会話を交わしている。	テレワークを緩和して、地域との身近な関係や家族との対話を現場で聞けるので、進めては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へは発信しています。家族様へは電話連絡や写真つきお手紙にて様子報告するとともに認知症の症状説明と理解を深めて頂けるよう話しをさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議では、施設での出来事や行事、事故報告などの報告を行っています。報告後には、参加頂いている皆様から意見をしっかりと頂いています。評価機関の活用等行いながらサービス向上に活かしています。	隔月に運営推進会議を開催しているが、返信用封筒を同封した書面会議として実施している。町内会長と副会長・民生委員・地域包括支援センター・代表家族が参加しており、コロナ対策や事故報告や利用者情報を記述して郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者指導課の担当者との連携は不十分である。地域包括センター担当者へは運営推進会議へ参加して頂き連携を図っています。認定更新の際には、具体的に様子を伝えるようにしています。	ホーム長と管理者が窓口となっている。書類上の手続きや運営に関する相談事を事業者指導課に気軽に相談出来る関係となっている。運営推進会議でも、事業所の情報を郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は(7時～19時解放)行ってません。定期的な勉強会を開き、知識を習得しています。今後も継続していきます。	身体拘束はしていない。毎月の不適切ケアに関する会議と年に2回(身体拘束廃止と高齢者虐待)の研修会を開催しており、ホーム長や担当スタッフを年間計画で決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて勉強会を定期的に行き、身体的、心理的虐待についての理解に努めています。不適切なケアについては、その場で話しをするようにしています。入居者様がストレスを感じるような発言がある時にも、対応方法を話し合います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について個々に知っている者も居るが、学ぶ機会を内部研修にて実施。2月に倫理と介護保険の勉強会実施済み。入居者様、ご家族様には必要に応じて情報提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所で出来る事出来ないことは明確になっている。入居者様やご家族に不安や疑問点があれば十分な説明を行い、理解、納得して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者様の事を把握し、情報共有しています。運営推進会議や電話、文書等を使い素早く対応しています。	電話を定期的の下さる家族もあり、利用者の様子を話す事で、認知症の進行予防として、薬の処方に関する意見交換をしたり、差し入れや贈り物をした家族が利用者の反応を電話で聞き取り、次回に活かせる様に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、自己評価と共に個別面接を行い、話しを聴く機会を持っています。メンタルヘルスとして随時スタッフの話を書くように努めています。必要な事項に関してはスタッフ会議にて話し合うようにしています。	半年毎にホーム長と管理者との個人面談では、職員同士のコミュニケーションの取り方に関する相談を気軽に受ける事で、処遇や勤務繰りの相談にもなる。それを、自己評価表と併せて回答して、皆が円滑に業務に取り組める様にシステムとして活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の手当や昇給など目標をもてるような仕組みを作ってくれています。残業は特別な業務以外ほぼ無い。有給休暇も取得しやすい環境である。就業規則はいつでも見れる状態になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては業務に支障の無いようスタッフに合った研修を勧め、参加しスタッフ会議等で報告共有しています。内部研修も行い、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者との交流も図られています。運営推進会議においても地域内の同業者とも意見交換出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの段階で調整した内容は各スタッフへ共有出来ています。実際、暮らし始めて不安に思われる事や困っている事項が起こった場合、随時アセスメントを行い、タブレット端末や申し送りノートを使い共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は勿論の事、サービス利用を考えるまでに至る経緯をじっくりと傾聴します。その上で、施設の役割をお話させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているケアに関してはプランにあげると共に、入所直後は不安も強く出るため特に、スタッフ間で情報共有を密に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや菜園作りの時は、生活の知恵や技を教えて貰っています。時にはスタッフも生活の悩み事を相談し助言してもらったり、励ましを受けたりもします。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事作りや菜園作りの時は、生活の知恵や技を教えて貰っています。ご利用者様の家族に近い存在となれるよう、また過度な距離感になり過ぎぬよう意識しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が緩和していけば、ご友人がいつでも訪問していただける環境、こちらからも訪問できるようにしていきたいです。。	家族や友人に電話をかけたり、かけて頂く頻度を増やしたりして、関係継続を図っている。また、年賀状を出す事を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないような席の配置にしています。イベントなどを通してご利用者様同士の良好な関係が築けるよう考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者へ情報を詳しく伝え、環境や暮らしが継続出来る様に連携しています。今後も同様に努めていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人様やご家族から情報を収集し、ケアプランに反映させています。特に食べたい物に関しては何よりも要望が多く、希望に沿うよう努めています。新規入居の際には生活歴や好み等大切にしています。	入浴時は、思いの汲み取りを深掘する良い機会。意思を上手く示せない方には、他の利用者との会話から聴いたり、入浴時やトイレや普段の表情や仕草からも汲み取ったりしている。コミュニケーションスキルをアップさせる目的で、認知症に関する研修を、必ず1回職員は受けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	細かい生活歴の把握はできていませんが、問題が発生した際には必ずご家族への報告と、これまでの生活歴を聴取する事で問題解決に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝食時間の遅い方はその方に合ったペースで過ごして頂いています。スタッフ間の申し送りにてその日一日の様子を共有しながら、次に出来ることへ繋げていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との話し合いは勿論のこと、スタッフ間では個々に情報収集し、ユニット会議内にてカンファレンスを行い決定している。随時、ご家族様の要望は聴取しています。	入居時にアセスメントを行った上でケアプランを作成する。2週間の間に最初のモニタリングを実施し、その後は、2~3か月で見直し。その後、6か月毎に様子を見ながら必要な利用者にはプランを更新する。プランを作成する際は、家族や主治医と交わした意見をプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使っでの記録になっているため、重要な申し送りも一括で両ユニットの閲覧をする事が出来、情報共有出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの例として、提携医以外の受診にご家族様が無理な場合でも、スタッフが同行しています。これからもその時々生まれるニーズに対応していきたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自肅中地域のボランティアグループの訪問や公民館、ふれあいセンターのイベント参加、図書館の利用を定期的に行っています。特に中学校での文化祭や体育祭への招待をして頂き、交流をはかれています。コロナ禍で自肅中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と隣合せの好立地にあり、ご家族様の安心の一つにもなっています。主治医からは必要な科への紹介状も対応して下さいます。必要時には必ずご家族様への相談話し合いは持たれています。	施設の隣に提携医があり、気軽に相談出来る関係が構築されている。隔週で往診があり、24時間対応なので、殆どの入居者が入居時に提携医に転医される。他科へは、家族が受診を介助する。歯科は、必要時に訪問する。法人内から週1回看護師が来て、体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、身体状態の把握、健康管理、個別的な処置やリハビリを行い、記録を残す事で情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった場合、早急に情報提供を文面で行い、足りない部分では、ソーシャルワーカーと電話やファックスでの情報を共有しています。退院に向けての話し合いも、病院へ出向き、話し合いを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず話しをさせていただきます。(重説内)後に、入院などで状態悪化した折に、ご家族の意向を聴取させて頂いています。(ケアプランに反映)段階的に、主治医とご家族とスタッフが集まりその時々での支援方法を決定していきます。	主治医の指示を受ける事を前提に看取りを行う。入居時に看取りの説明を行うが、月日が経つに連れ、状態の変化する利用者に揺れる家族の思いに添って、その都度、必要な説明をしたり情報を提供している。医療の度合いに応じて、訪問看護を利用する事も予め検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々には対応出来るスタッフもいますが、訓練としては実施できていません。知識として会議の中で急変時の対応として話し合いを行っています。今後、訓練を兼ねての研修を行っていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回(昼、夜設定)行っています。非常用食料や備品の準備はこれからです。	年2回、昼夜想定のもと利用者も参加して火災訓練を実施している。消防署への提出書類を、利用者と一緒に持参して、顔の見える関係を作る様にしている。備蓄は、災害時に三日は持つ様に、普段から保存の効く食材を織り交ぜて多めに買っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に馴れ合いの話し方になる事もあるが、基本、本人の尊厳を意識し、スタッフ間においても注意しあえる関係作りをしています。	呼称は苗字に『さん』を付ける。同姓同名の方には下の名前に『さん』を付ける。雑談や談笑している時など、TPOに併せて、砕けた話し方をする事はあるが、接遇研修を年間計画に盛り込んで、親しき中にも礼儀ありの心を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出にくい方へは、カードを使うようにして飲み物などを選んでいただいています。洋服も2着から選んで頂けるよう準備し、視覚で判断できるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての方には出来ていませんが、特に朝寝坊するかたもおられ、スケジュールの変更も臨機応変に行っています。集団ケアでなく個別ケアを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等がある時は、他の入居者様に気づかれないように声掛け、誘導行っています。外出の際には、お気に入りの衣類や小物を身に付けるよう声掛け介助行います。定期的な出張美容の提供をしています。(毎月第1土曜日)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、食べたい料理の調査を行い、管理栄養士監修の下に献立を立て調理する。その際にも、出来る事は一緒に行い、食べる事が楽しみになるようこれからも工夫していきます。	オープンキッチンやリビングのダイニングテーブルで、利用者と一緒に盛り付けやおやつ作りをすることが、楽しみの時間となっている。桜餅や白玉、ケーキのデコレーション、どら焼き・水羊羹・沖縄ドーナツを利用者と作り合っている。行事では、珍しい献立が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケイタリングの食材を使い、栄養面ではバランスのとれた食事を提供出来ている。食べる量の調整や形態はそれぞれ個別に対応しています。行事食に関しては、会社内の管理栄養士の下、バランスの良い食事を提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと磨き残しのチェックを行い、歯科衛生士による口腔内衛生指導を定期的に行っています。(毎週月曜日)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、パターンの把握をスタッフ間で共有しています。特に排便に関してはトイレに座って頂けるよう食後の誘導に気を付けています。	原則日中は、トイレに行って頂く。夜間の安全面を考慮した上で、どうしても必要な方にのみ、ポータブルトイレを設置する。排泄パターンを把握し、利用者のペースで支援している。紙おむつの方をリハビリパンツに改善したり、パットの枚数を減らしたり、排泄機能の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただけるよう飲み物の種類を多くしています。特に牛乳が飲める方には起床時に提供させて頂いています。薬に頼っていることが多いですが、身体を動かすなどの運動も取り入れています。薬剤師との連携行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はこちらで決めているが、気分によって入りたくない日などは、日にちをずらすなどの対応を随時行っています。入浴を少しでも楽しんで頂けるよう、季節の変わり目にはかんきつ湯(ゆず湯、ミカン湯等)を行っています。	入浴は週2回で、時間帯は出来るだけ利用者の希望を聞き入れている。1階は、リフト浴を導入しているので車いすの方でも入浴できる。嫌がる方には「皮膚状態のチェックをしますよ～」と言って、気分よく入れる様に工夫している。入浴剤やゆず湯を提供して、季節を感じて頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間は個々に合わせて対応しています。なるべく晴れた日には、ベランダに出たり、外へ散歩に出掛けて日に当たるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬の内容を把握していないが、薬剤情報は各ファイルに閉じて、いつでも閲覧できるようにしている。提携薬局の薬剤師と連携し薬の事故防止に力を入れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方、洗濯物をたたむのが得意な方、植木への水やりをしたい方、口腔体操の指揮をとって下さる方それぞれの役割が出来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自粛中だが、ドライブやホーム周辺の散歩にて気分転換を図っています。	敷地内を毎日の日課として散歩している。田園の広がるテラスを毎日開放しており、普段から、花壇への水やり、草取りなどを日課としている利用者もいる。また、ドライブも毎月行い、近所の飛行場や港湾のドライブスポットへ出向く。利用者が、その日、ふと呟いた時に、出来るだけその日に連れ出す。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もおられますが、それを使う訳ではなさそうで、安心感とされます。お金をお店で支払う事も今は無いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人からの年賀状や手紙がよく届き、とても、楽しみにされています。今年はお孫さんに年賀状を返されるご利用者様がられました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口にはいつも緑が有り、ホッとする空間になっていると思います。南向きの大きな窓から見える景色はとても開放感が有り、広く感じられると思います。家庭菜園も行っています。	田園の広がる建物の玄関に入ると、額に収められた絵画や書が出迎えてくれて、職員の挨拶も清々しい。リビングは、入居者が職員と語らう場面が落ち着いた雰囲気となっている。共用のトイレや浴室も、見るからに清潔感を感じる。中でも、着物生地にも使われる柄のタイルが一面に貼って浴室には目を引く。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしたり、2階に上がっておしゃべりをしたりとそれぞれ思うように過ごしています。スタッフはその場の雰囲気を読み取り声掛け付き添い行います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇の持ち込みをされている方やご家族様が居心地を考え、家具や椅子を持ち込まれて配置して下さっています。	どの部屋も飾り過ぎず、すっきりとしており、介助もし易くなっている。空調や湿度も適切に管理されていた。仏壇や家族写真や贈り物の花がセンス良く配置され、利用者も居心地よいと話された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチン、お年寄りの背丈に合わせた低い高さになっており、部屋内部では安全に立ち上がりや歩行が出来る様に、介助バーや家具の配置を工夫し、自立できる環境を作っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390102246		
法人名	株式会社サンブレラ		
事業所名	グループホームパラソル操南(第2ユニット)		
所在地	岡山県岡山市中区藤崎136-26		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 23 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_xani=true&JigyosyoCd=3390102246-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは各種研修へ積極的に参加しています。外部研修としては、認知症介護実践研修に受講可能なスタッフから順番に講習し認知症への理解、現場での実践へと繋げています。内部研修としては、担当制とし毎月担当者が責任をもって行うことで全体の知識の向上に繋がるよう実施しています。また、行事においてもコロナ禍でさまざまな制限もありますが、施設内で全体行事を月に1回以上開催、日常の手作りおやつ、地域との関わりという点でご利用者様と一緒に資源化物を持参するんど取り組んでいます。面会も制限している中ですが、ご家族様へ写真付きのお手紙をお出ししたり、電話連絡等にて関係性を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年、法人全体で人事異動を実施したが、今まで培った経験をより活かせる様に、ホーム長を中心にスタッフ全体で飛躍させようと試みた。この施設も、前任者の思いを受け継ぎ、チームワークプレーで維持しようと、新ホーム長は、職員一人一人と話す機会を増やし、職員の気持ちを汲む場を設けた。全てが自分自身に降りかかってくる事だと戒めと感じ、職員を大事なパートナーとし、存在感を高めてきた。持ち前の明るさで新任として取り組むべき事柄を黙々徹底している事が窺え、今、出来る事と出来ない事を明確にして、ぶれない指導と役割を与え尊重している。可能性は、まだまだ少ないが、理想は高く、来年の評価が待ち遠しい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割は認識している。理念の共有はしているが、内容を理解し、実践しているかという意味ではもう少しだと思います。今後も定期的に会議の中で共有していきたいと思います。	毎月の管理者会議の都度、社長と理念共有した後、毎月の事業所内のカンファレンス(業務や利用者に関する送りや勉強会)で、その周知を図っている。新人職員には入所時と半年毎の自己評価表を活用して、理解を深めて頂いている。	職員全員が、理念や方針を覚えられる様にしては如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入はしていないが、リサイクル活動には積極的に参加し接点を持っている。コロナ禍で交流は不十分となっている。今後、気軽に来て頂ける環境に向けて交流を深めていきたいと思っています。	リサイクル活動では、毎月利用者と資源ごみを出しに行き、当番さんや行き交う人たちと挨拶や会話を交わしている。	テレワークを緩和して、地域との身近な関係や家族との対話を現場で聞けるので、進めては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へは発信しています。家族様へは電話連絡や写真つきお手紙にて様子報告するとともに認知症の症状説明と理解を深めて頂けるよう話しをさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議では、施設での出来事や行事、事故報告などの報告を行っています。報告後には、参加頂いている皆様から意見をしっかりと頂いています。評価機関の活用等行いながらサービス向上に活かしています。	隔月に運営推進会議を開催しているが、返信用封筒を同封した書面会議として実施している。町内会長と副会長・民生委員・地域包括支援センター・代表家族が参加しており、コロナ対策や事故報告や利用者情報を記述して郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者指導課の担当者との連携は不十分である。地域包括センター担当者へは運営推進会議へ参加して頂き連携を図っています。認定更新の際には、具体的に様子を伝えるようにしています。	ホーム長と管理者が窓口となっている。書類上の手続きや運営に関する相談事を事業者指導課に気軽に相談出来る関係となっている。運営推進会議でも、事業所の情報を郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口の扉も常時施錠していません。今後も身体拘束廃止には力を入れていきます。定期的な勉強会を開き、知識を習得しています。今後も継続していきます。	身体拘束はしていない。毎月の不適切ケアに関する会議と年に2回(身体拘束廃止と高齢者虐待)の研修会を開催しており、ホーム長や担当スタッフを年間計画で決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にて勉強会を定期的に開き、身体的、心理的虐待についての理解に努めています。不適切なケアについては、その場で話しをするようにしています。入居者様がストレスを感じるような発言がある時にも、対応方法を話し合います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について個々に知っている者も居るが、学ぶ機会を内部研修にて実施。2月に倫理と介護保険の勉強会実施済み。入居者様、ご家族様には必要に応じて情報提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所で出来る事出来ないことは明確になっている。入居者様やご家族に不安や疑問点があれば十分な説明を行い、理解、納得して頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で入居者様の事を把握し、情報共有しています。運営推進会議や電話、文書等を使い素早く対応しています。	電話を定期的の下さる家族もあり、利用者の様子を話す事で、認知症の進行予防として、薬の処方に関する意見交換をしたり、差し入れや贈り物をした家族が利用者の反応を電話で聞き取り、次回に活かせる様に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、自己評価と共に個別面接を行い、話しを聴く機会を持っています。必要な事項に関してはスタッフ会議にて話し合うようにしています。	半年毎にホーム長と管理者との個人面談では、職員同士のコミュニケーションの取り方に関する相談を気軽に受ける事で、処遇や勤務繰りの相談にもなる。それを、自己評価表と併せて回答して、皆が円滑に業務に取り組める様にシステムとして活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時の手当てや昇給など目標をもてるような仕組みを作ってくれています。残業は特別な業務以外ほぼ無い。有給休暇も取得しやすい環境である。就業規則はいつでも見れる状態になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては業務に支障の無いようスタッフに合った研修を勧め、参加しスタッフ会議等で報告共有しています。内部研修も行い、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者との交流も図られています。運営推進会議においても地域内の同業者とも意見交換出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントの段階で調整した内容は各スタッフへ共有出来ています。実際、暮らし始めて不安に思われる事や困っている事項が起こった場合、随時アセスメントを行い、タブレット端末や申し送りノートを使い共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は勿論の事、サービス利用を考えるまでに至る経緯をじっくりと傾聴します。その上で、施設の役割をお話させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としているケアに関してはプランにあげると共に、入所直後は不安も強く出るため特に、スタッフ間で情報共有を密に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや菜園作りの時は、生活の知恵や技を教えて貰っています。ご利用者様の家族に近い存在となれるよう、また過度な距離感になり過ぎぬよう意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日やイベントの情報をお知らせし、ホームへ気軽に来て頂ける機会を設けています。来られた際には必ず、情報交換を行うことをスタッフ一同周知しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が緩和していけば、ご友人がいつでも訪問していただける環境、こちらからも訪問できるようにしていきたいです。	家族や友人に電話をかけたり、かけて頂く頻度を増やしたりして、関係継続を図っている。また、年賀状を出す事を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体行事は勿論の事、普段の生活の中でも席を移動し、一緒に洗濯物を畳んだり会話できるよう工夫しながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者へ情報を詳しく伝え、環境や暮らしが継続出来る様に連携しています。今後も同様に努めていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人様やご家族から情報を収集し、ケアプランに反映させています。特に食べたい物に関しては何よりも要望が多く、希望に沿うよう努めています。	入浴時は、思いの汲み取りを深掘する良い機会。意思を上手く示せない方には、他の利用者との会話から聴いたり、入浴時やトイレや普段の表情や仕草からも汲み取ったりしている。コミュニケーションスキルをアップさせる目的で、認知症に関する研修を、必ず1回職員は受けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	細かい生活歴の把握はできていませんが、問題が発生した際には必ずご家族への報告と、これまでの生活歴を聴取する事で問題解決に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝食時間の遅い方はその方に合ったペースで過ごして頂いています。スタッフ間の申し送りにてその日一日の様子を共有しながら、次に出来ることへ繋げていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との話し合いは勿論のこと、スタッフ間では個々に情報収集し、ユニット会議ない内にてカンファレンスを行い決定している。随時、ご家族様の要望は聴取しています。	入居時にアセスメントを行った上でケアプランを作成する。2週間の間に最初のモニタリングを実施し、その後は、2～3か月で見直し。その後、6か月毎に様子を見ながら必要な利用者にはプランを更新する。プランを作成する際は、家族や主治医と交わした意見をプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使っでの記録になっているため、重要な申し送りも一括で両ユニットの閲覧をする事が出来、情報共有出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの例として、提携医以外の受診にご家族様が無理な場合でも、スタッフが同行しています。これからもその時々生まれるニーズに対応していきたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループの訪問や公民館、ふれあいセンターのイベント参加、図書館の利用を定期的に行っています。特に中学校での文化祭や体育祭への招待をして頂き、交流をはかれています。コロナ禍で自粛中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と隣合せの好立地にあり、ご家族様の安心の一つにもなっています。主治医からは必要な科への紹介状も対応して下さいます。必要時には必ずご家族様への相談話し合いは持たれています。	施設の隣に提携医があり、気軽に相談出来る関係が構築されている。隔週で往診があり、24時間対応なので、殆どの入居者が入居時に提携医に転医される。他科へは、家族が受診を介助する。歯科は、必要時に訪問する。法人内から週1回看護師が来て、体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、身体状態の把握、健康管理、個別的な処置やリハビリを行い、記録を残す事で情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった場合、早急に情報提供を文面で行い、足りない部分では、ソーシャルワーカーと電話やファックスでの情報を共有しています。退院に向けての話し合いも、病院へ出向き、話し合いを持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず話しをさせていただきます。(重説内)後に、入院などで状態悪化した折に、ご家族の意向を聴取させて頂いています。(ケアプランに反映)段階的に、主治医とご家族とスタッフが集まりその時々での支援方法を決定していきます。	主治医の指示を受ける事を前提に看取りを行う。入居時に看取りの説明を行うが、月日が経つに連れ、状態の変化する利用者にも揺れる家族の思いに添って、その都度、必要な説明をしたり情報を提供している。医療の度合いに応じて、訪問看護を利用する事も予め検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々には対応出来るスタッフもいますが、訓練としては実施できていません。知識として会議の中で急変時の対応として話し合いを行っています。今後、訓練を兼ねての研修を行っていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回(昼、夜設定)行っています。非常用食料や備品の準備はこれからです。	年2回、昼夜想定のもと利用者も参加して火災訓練を実施している。消防署への提出書類を、利用者と一緒に持参して、顔の見える関係を作る様にしている。備蓄は、災害時に三日は持つ様に、普段から保存の効く食材を織り交ぜて多めに買っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に馴れ合いの話し方になる事もあるが、基本、本人の尊厳を意識し、スタッフ間においても注意しあえる関係作りをしています。	呼称は苗字に『さん』を付ける。同姓同名の方には下の名前に『さん』を付ける。雑談や談笑している時など、TPOに併せて、砕けた話し方をする事はあるが、接遇研修を年間計画に盛り込んで、親しき中にも礼儀ありの心を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が出にくい方へは、カードを使うようにして飲み物などを選んでいただいています。洋服も2着から選んで頂けるよう準備し、視覚で判断できるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての方には出来ていませんが、特に朝寝坊するかたもおられ、スケジュールの変更も臨機応変に行っています。集団ケアでなく個別ケアを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等がある時は、他の入居者様に気づかれないように声掛け、誘導行っています。外出の際には、お気に入りの衣類や小物を身に付けるよう声掛け介助行います。定期的な出張美容の提供をしています。(毎月第1土曜日)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、食べたい料理の調査を行い、管理栄養士監修の下に献立を立て調理する。その際にも、出来る事は一緒に行い、食べる事が楽しみになるようこれからも工夫していきます。	オープンキッチンやリビングのダイニングテーブルで、利用者と一緒に盛り付けやおやつ作りをすることが、楽しみの時間となっている。桜餅や白玉、ケーキのデコレーション、どら焼き・水羊羹・沖縄ドーナツを利用者と作り合っている。行事では、珍しい献立が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケイタリングの食材を使い、栄養面ではバランスのとれた食事を提供出来ている。食べる量の調整や形態はそれぞれ個別に対応しています。行事食に関しては、会社内の管理栄養士の下、バランスの良い食事を提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと磨き残しのチェックを行い、歯科衛生士による口腔内衛生指導を定期的に行っています。(毎週月曜日)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、パターンの把握をスタッフ間で共有しています。特に排便に関してはトイレに座って頂けるよう食後の誘導に気を付けています。	原則日中は、トイレに行って頂く。夜間の安全面を考慮した上で、どうしても必要な方にのみ、ポータブルトイレを設置する。排泄パターンを把握し、利用者のペースで支援している。紙おむつの方をリハビリパンツに改善したり、パットの枚数を減らしたり、排泄機能の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただけるよう飲み物の種類を多くしています。特に牛乳が飲める方には起床時に提供させて頂いています。薬に頼っていることが多いですが、身体を動かすなどの運動も取り入れています。薬剤師との連携行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はこちらで決めているが、気分によって入りたくない日などは、日にちをずらすなどの対応を随時行っています。入浴を少しでも楽しんで頂けるよう、季節の変わり目にはかんきつ湯(ゆず湯、ミカン湯等)を行っています。	入浴は週2回で、時間帯は出来るだけ利用者の希望を聞き入れている。1階は、リフト浴を導入しているので車いすの方でも入浴できる。嫌がる方には「皮膚状態のチェックをしますよ～」と言って、気分よく入れる様に工夫している。入浴剤やゆず湯を提供して、季節を感じて頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間は個々に合わせて対応しています。なるべく晴れた日には、ベランダに出たり、外へ散歩に出掛けて日に当たるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬の内容を把握していないが、薬剤情報は各ファイルに閉じて、いつでも閲覧できるようにしている。提携薬局の薬剤師と連携し薬の事故防止に力を入れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方、洗濯物をたたむのが得意な方、植木への水やりをしたい方、口腔体操の指揮をとって下さる方それぞれの役割が出来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自粛中だが、ドライブやホーム周辺の散歩にて気分転換を図っています。	敷地内を毎日の日課として散歩している。田園の広がるテラスを毎日開放しており、普段から、花壇への水やり、草取りなどを日課としている利用者もいる。また、ドライブも毎月行い、近所の飛行場や港湾のドライブスポットへ出向く。利用者が、その日、ふと呟いた時に、出来るだけその日に連れ出す。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もおられますが、それを使う訳ではなさそうで、安心感とされます。お金をお店で支払う事も今は無いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられ、毎日ご家族様へ定時に連絡されています。本人希望でこちらから電話を掛ける際には、介助させていただきます。お手紙でのやり取りも時々あります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口にはいつも緑が有り、ホッとする空間になっていると思います。南向きの大きな窓から見える景色はとても開放感が有り、広く感じられると思います。家庭菜園も行っています。	田園の広がる建物の玄関に入ると、額に収められた絵画や書が出迎えてくれて、職員の挨拶も清々しい。リビングは、入居者が職員と語らう場面が落ち着いた雰囲気となっている。共用のトイレや浴室も、見るからに清潔感を感じる。中でも、着物生地にも使われる柄のタイルが一面に貼ってある浴室には目を引く。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になりくつろがれたり、1階に降りて過ごされる時もあります。その都度支援させていただきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇の持ち込みをされている方やご家族様が居心地を考え、家具や椅子を持ち込まれて配置して下さっています。	どの部屋も飾り過ぎず、すっきりとしており、介助もし易くなっている。空調や湿度も適切に管理されていた。仏壇や家族写真や贈り物の花がセンス良く配置され、利用者も居心地よいと話された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチン、お年寄りの背丈に合わせた低い高さになっており、部屋内部では安全に立ち上がりや歩行が出来る様に、介助バーや家具の配置を工夫し、自立できる環境を作っています。		